

プロデューサー 中鉢裕幸 岡部圭一朗 安西志麻  
監督・脚本 竹藤恵一郎  
撮影 杉浦誠

制作協力 株式会社オフィス・シマ  
企画・制作 東映株式会社 教育映像部

あらすじ



—いじめの発生—

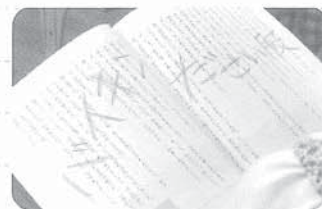
小学6年生のひなたのクラスで、ある日事件が起こる。さくらのくしゃみが由衣の背中にかかってしまったのだ。さくらをバイキン扱いして逃げ回る由衣と、ハンカチで拭いてあげようとするさくらの追いかけてこでクラス全体が盛り上がるが、この事をきっかけに徐々にクラスの様子がおかしくなっていく。

ひなた「初めは、ちょっとふざけてただけなんです・・・」

—ターゲットになってしまったさくら—

その日から由衣たちによる、さくらへのいじめが始まった。無視、教科書への落書き、バイキンごっこ・・・徐々にいじめがエスカレートしていく。ひなたは友人の明日香やさくらの親友・菜々子に、いじめを傍観していることについて非難されてしまう。

菜々子「だまって見てるの?それって一緒にいじめてるのと同じじゃん!」



—真夜中の悪夢—

ある夜、ひなたはクラスのバイキン係に選ばれるという悪夢を見て目を覚ます。夢で良かったとほっとすると同時に、さくらの気持ちはこの悪夢と同じだと気が付くひなた。いじめの現場を見ながら、当事者の気持ちを考えることのできなかったひなたは、同じピアノ教室に通う高校生の勝田に相談してみる。

ひなた「じゃあ、さくらちゃんはどんな気持ちなの?」

—信頼できる人に相談すること—

ひなたが勇気を持って相談すると、勝田は以前自身がいじめられていた過去を教えてくれた。またそんな勝田を救ってくれた友達の話も。憧れの勝田がいじめられていたという事に驚きながらも、ひなたはいじめの傍観者だった自分に何ができるのか考えはじめる。

勝田「まずは行動してみようよ。ひなたちゃんのできる範囲でいいんだから。」



—私たちにできること—

勝田のアドバイスを一人ではなかなか実践できない事に気付いたひなたは、明日香・菜々子にも相談してみる。直接いじめっ子である由衣に注意するのは勇気がいる、でも一人では難しくてもみんなが行動に移せば、出来ることも増えていく。大事なことは「いじめの図式」を崩すこと。さっそく行動を開始するひなたたち。

菜々子「作戦?」 ひなた「そう、私たちにできる作戦!」

—勇気を持つということ—

ひなたたちの行動をきっかけに、クラスの雰囲気も変わってきた。徐々にさくらにも笑顔が増えてきたようだ。このまま平穏な日々が続けば、ひなたがそう思っていたある日、またもさくらを由衣たちの嫌がらせが襲い、盛り上がるクラス。やはり断ち切れないのか、そこでひなたは以前から考えていたある行動をとってクラスを変えようとするが・・・

ひなた「先生、私このクラスをいじめのないクラスにしたい!」



学習のねらい

- 自分のクラスに、「いじめの芽」となっている事象がないか、クラスで話しあってみる。
- いじめに悩む人の気持ちを想像させ、いじめを防ぐ為にはどうすれば良いのか、自らはいじめっ子・いじめられっ子に対してどういう行動が取れるのか自らの問題として考える。

監修者のコメント

「いじめと戦おう!」ホームページ管理人 玉間伸啓氏

いじめっ子は、周囲の児童を楽しませようと、いじている事が多いのです。そして周囲の児童は「自分たちは笑ってるだけ」だと思いがちです。そういったクラスの構図の危険性や、いじめを防ぐためのヒントがこのドラマを見たら分かります。是非、児童のみなさんと話し合ってみてください。

